

浜坂高生、地元の資源有効活用へ発案



温泉熱で点灯するLEDライトを見上げる浜坂高校の生徒たち＝いずれも新温泉町浜坂

## 温泉熱発電で まちを照らせ

JR浜坂駅前

新温泉

JR浜坂駅前の町民バス浜坂駅バス停（新温泉町浜坂）の表示板に、温泉熱で発電する発光ダイオード（LED）ライトが設置された。浜坂高校の生徒たちが町のシンボルである温泉を有効活用しようと発案し、町おんせん天国堂が発電装置を手作りした。（長谷部崇）



バス停表示板を彩るLEDライト

### バス停表示にLED照明「形になってうれしい」

「探究」の授業で、温度差エネルギーに取り組んだ2年生4人が、夜などに明かりが少ない通学路やバス停の周辺を照らし、安全に使ってもらおうと考えた。1月下旬には実証実験の第1弾として、高校の前からJR浜坂駅方面へ続く県道沿いに太陽光発電の簡易照明4個を取り付けた。

実験第2弾は、浜坂駅前のモニメント「温泉塔」から流れ出る温泉を利用し、管に温泉を通すと外気との温度差で発電する装置を設置。近くのバス停まで電気配線をつなぎ、表示板の縁に飾り付けたLEDライトのチューブを点灯させた。電圧は乾電池2本分という。

2年の小林壮さん（17）は「地域のために考えたことが形になってうれしい」。おんせん天国堂の谷口薫室長は「『おんせん天国』のまちを高校生と一緒に明るくできてよかった」と話した。